

低温時の深水管理と葉いもちの早期発見・
早期防除に努めましょう！

稻作指導情報 第8号
平成11年7月21日
青森県農業生産対策推進本部

<作業のポイント>

生育は平年よりやや早く、葉いもちも各地で確認されていることから、下記の事項を守って管理する。

幼穂形成期に達してから10日間は、水深10cm程度の「幼穂形成期深水かんがい」を実施する。

穂ばらみ期が低温の場合には、15cm以上の深水にして幼穂を保護する。

追肥は幼穂形成期を確認し、生育量や葉色など栄養診断に基づいて実施する。

葉いもちの早期発見に努め、発生を確認したら直ちに防除する。

1 生育状況

(1) 農業試験場作況田の生育状況(7月19日現在)

ア 「むつほまれ」の生育は、黒石(本場)では草丈、茎数が平年をやや下回り、藤坂(支場)ではほぼ平年並みである。

幼穂形成期の到達日は、黒石で7月10日と平年より2日早く、藤坂では7月9日と平年より6日早かった。

イ 「つがるロマン」の生育は、草丈、茎数がほぼ過去3か年の平均並みである。

幼穂形成期の到達日は7月12日で、過去3か年平均より1日早くなっている。

ウ 「ゆめあかり」の生育は、草丈、茎数とともに「むつほまれ」並みである。

幼穂形成期の到達日は、黒石で7月8日、藤坂で7月7日と「むつほまれ」よりそれぞれ2日早くなっている。

表-1 7月19日現在の水稻の生育状況(青森県農業試験場)

場所	品種	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉数(枚)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	64.8	67.6	67.1	22.4	24.2	20.3	11.5	11.2	11.2
	つがるロマン	61.0	(62.0)	61.8	20.0	(19.5)	18.2	11.9	(11.4)	11.4
	ゆめあかり	63.4	-	-	22.1	-	-	11.5	-	-
藤坂	むつほまれ	59.9	60.4	63.8	21.5	21.3	19.6	11.3	10.8	11.0
	かけはし	61.1	(62.7)	64.3	20.1	(22.3)	22.0	11.2	(10.7)	10.8
	ゆめあかり	60.2	-	-	23.3	-	-	11.5	-	-

注) 苗の種類: 中苗、移植日: 黒石 5月20日、藤坂 5月14日

「つがるロマン」と「かけはし」の平年値は3か年平均

平年、前年は7月20日現在の数値

表-2 穂首分化期及び幼穂形成期の到達日(青森県農業試験場)

場所	品種	穂首分化期(月日)			幼穂形成期(月日)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	7/1	7/4	7/2	7/10	7/12	7/9
	つがるロマン	7/6	(7/7)	7/6	7/15	(7/16)	7/14
	ゆめあかり	6/29	-	-	7/8	-	-
藤坂	むつほまれ	7/1	7/7	7/5	7/9	7/15	7/12
	かけはし	6/25	(7/4)	7/1	7/2	(7/12)	7/8
	ゆめあかり	6/29	-	-	7/7	-	-

(2) 県内の生育状況 (7月15日現在)

ア 各地域の主要品種の生育状況

(ア) 県内の生育は平年に比べて、草丈が並み～短く、 m^2 当たり茎数は中弘南黒地域と下北地域で多く、その他の地域では概ね平年並みになっている。

(イ) 幼穂形成期の到達日は、津軽地域で平年より1～3日早く、県南地域で平年より4～5日早くなっている。

表 - 3 各地域の生育状況

各地域農業改良普及センタ - 調べ

地 域	主要品種の生育状況 (cm、本、葉、本/ m^2)						穗首 分化 期	幼穂 形成 期	地域の概況 (平年対比)
	品 種	年次	草丈	茎数	葉数	m^2 茎数			
東 青	むつほ まれ	本年	50.2	21.8	9.9	542	7/ 6	7/14	草丈：短い
		平年	54.8	22.4	9.6	557	7/ 9	7/17	茎数：やや少ない
		前年	64.0	17.1	9.9	386	7/ 6	7/15	葉数：やや多い
		平年比	92	97	103	97	早3	早3	
西	むつほ まれ	本年	58.5	23.7	10.8	549	6/30	7/10	草丈：やや短い
		平年	59.9	23.7	10.6	543	7/ 2	7/11	茎数：並み
		前年	64.2	24.1	10.9	531	6/30	7/ 8	葉数：やや多い
		平年比	98	100	102	101	早2	早1	
中 弘 南 黒	つがる ロマン	本年	55.9	26.1	10.9	569	7/ 5	7/15	草丈：短い
		平年	59.9	23.1	10.6	519	7/ 7	7/16	茎数：多い
		前年	66.1	24.0	10.9	544	7/ 5	7/14	葉数：やや多い
		平年比	93	113	103	110	早2	早1	
北 五	むつほ まれ	本年	57.3	23.6	10.6	546	7/ 2	7/11	草丈：やや短い
		平年	60.4	25.0	10.5	582	4/ 4	7/13	茎数：少ない
		前年	67.8	21.1	10.3	494	7/ 4	7/12	葉数：並み
		平年比	95	94	101	97	早2	早2	
上 十三	むつほ まれ	本年	53.9	22.6	10.0	566	7/ 3	7/12	草丈：並み
		平年	54.3	22.6	10.0	554	7/ 9	7/17	茎数：並み
		前年	62.2	18.5	10.2	458	7/ 7	7/14	葉数：並み
		平年比	99	100	100	102	早6	早5	
下 む	かけは し	本年	54.2	27.0	10.0	629	7/ 1	7/11	草丈：並み
		平年	53.6	21.2	9.7	510	7/ 7	7/15	茎数：多い
		前年	53.1	19.7	9.5	494	7/ 4	7/14	葉数：やや多い
		前年比	101	127	103	123	早6	早4	
三 八	むつほ まれ	本年	56.1	24.1	10.3	546	7/ 1	7/11	草丈：やや短い
		平年	58.2	23.7	10.4	558	7/ 5	7/15	茎数：やや多い
		前年	61.3	20.7	10.4	489	7/ 4	7/12	葉数：並み
		平年比	96	102	99	101	早4	早4	

注) 平年値は5～13か年の平均値(つがるロマンは3か年、かけはしは4か年)

イ 「つがるロマン」と「ゆめあかり」の生育状況

(ア) 「つがるロマン」の生育は、過去3か年の平均に比較して、草丈が短い～やや短く、 m^2 当たり茎数が多くなっている。

幼穂形成期の到達日は、津軽地域で7月15日、津軽地域で7月16日、南部地域で7月12日と、過去3か年平均に比較して1～4日早くなっている。

(イ) 「ゆめあかり」の生育は、前年に比較して、津軽、県南地域ともに草丈が短く、 m^2 当たり茎数は多くなっている。

幼穂形成期の到達日は、津軽地域は7月10日と前年並み、県南地域は7月10日と前年より3日早くなっている。

表 - 4 「つがるロマン」と「ゆめあかり」の生育状況

各地域農業改良普及センタ - 調べ

品種	生育状況 (cm、本、枚)						穗首分化期	幼穂形成期	地域の概況 < 平年(前年)対比 >
	地域	年次	草丈	茎数	葉数	m ² 茎数			
つがるロマン	津軽地域	本年	55.9	26.1	10.9	569	7/5	7/15	草丈：短い
		平年	59.9	23.1	10.6	519	7/7	7/16	茎数：多い
		平年比	93	113	103	110	早2	早1	葉数：やや多い
		前年	66.1	24.0	10.9	544	7/5	7/14	
		前年比	85	109	100	105	0	遅1	
	南部地域	本年	54.2	23.3	11.0	558	7/6	7/16	草丈：短い
		平年	59.1	22.1	10.8	510	7/8	7/17	茎数：多い
		平年比	92	105	102	109	早2	早1	葉数：並み
		前年	62.8	21.4	11.0	507	7/6	7/15	
		前年比	86	109	100	110	0	遅1	
ゆめあかり	津軽地域	本年	56.4	20.3	11.2	494	7/2	7/12	草丈：やや短い
		平年	59.5	18.5	10.9	461	7/7	7/16	茎数：多い
		平年比	95	110	103	107	早5	早4	葉数：やや多い
	県南地域	本年	63.3	18.4	11.0	407	7/7	7/15	
		平年比	89	110	102	121	早5	早3	

注) 1. つがるロマンの平年値は3か年の平均値

2. つがるロマンの地域は、栽培マニュアルに基づく区分

2 これからの農作業と管理

(1) 水管理

- ア 幼穂形成期に達した水田は、天候の良否にかかわらず水深10cmの「幼穂形成期深水かんがい」を10日間実施する。
- イ 主茎の葉耳間長が-12cm~+4cm（出穂前15~7日前）の期間に、平均気温で19以下、最低気温で17以下になると予想される場合には、15cm以上の深水管理で幼穂を保護する。
- ウ 低温時に深水管理ができるように畦畔を点検・補強する。
- エ 穂ばらみ期に高温が続く場合は、4cm程度の浅水に管理し、時々水を入れ換えて掛け流しかんがいを行い、根の老化防止に努める。
特に、「ゆめあかり」は止葉の枯れ上がりが早いことから、中干しの不十分な水田などでは水の入れ換えを積極的に行う。

(2) 追肥

- ア 追肥は、幼穂形成期に到達したことを確認し、葉色が淡くなり、追肥可能と判断されたら適正量を追肥する。
- イ 特に「つがるロマン」は、多肥条件で倒伏しやすいので、慎重に行う。
- ウ 葉色が濃い場合は、幼穂形成期の10日後（減数分裂期）まで追肥を遅らせる。
- エ 減数分裂期に達しても、葉色が淡くならない場合や低温が続くと予想される場合には、追肥を中止する。

(3) 病害虫防除

ア 葉いもち

7月8日に東青地域で初発が確認され、その後北五地域、西地域、下む地域など各地で発生が確認されている。

- (ア) ほ場に放置されている補植用取置苗は、直ちに処分する。
- (イ) 水田を良く見回り、発生を確認したら直ちに薬剤を散布する。
- (ウ) 発生が止まらない場合は、4~5日間隔で追加防除する。
なお、降雨が続くような場合であっても、雨の合間を見て防除剤を散布する。
- (エ) 同一薬剤の連続使用は、耐性菌出現のおそれがあるので避ける。
- (オ) 「ゆめあかり」は比較的いもち病に弱い品種なので、予防防除をしていない水田では、発生が確認されなくても薬剤散布する。

イ 稲こうじ病

- (ア) 防除適期が出穂前10~20日であり、前年発生が認められた水田などでは、出穂前15日頃を目安に防除する。
- (イ) 銅剤は、出穂期に近いほど薬害が発生しやすいので注意して使用する。

ウ 穂いもちなど出穂期直前防除

出穂直前（走り穂の出たころ）には、穂いもち、紋枯病、ニカメイガの防除を行うほか、発生状況に応じて、コバネイナゴ、ウンカ類、ごま葉枯病等の防除も行う。

————「つがるロマン7・8・9作戦」の展開————
たんぱく質含有率（玄米）7.0%以下、整粒歩合80%以上、
1等米比率90%以上を確保し、「つがるロマン」の銘柄確立
をしよう！

7月の重点推進事項・・・追肥の適正化
・・・水管理の徹底

次回の稻作指導情報の発行予定は8月3日です。